
自販機

名前無し

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

自販機

【Nコード】

N0407S

【作者名】

名前無し

【あらすじ】

またもよくある話の短編です。他の二つの連載作品の間に休憩がてら書きました。数が増えたらまとめようと思います。

今日は大分暑いな：

日差しが照って、喉が渴く

そうだこんな時はジュースを飲もう

近くに自販機がないか見渡してみる

おっ、あったあった♪

小走りに自販機に駆け寄る

財布を取り出し、百円を自販機に入れる

チャリン

百円が返ってくる

早くジュースが飲みたいのにと、僕はイライラする

出てきた百円をもう一度自販機に入れる

チャリン

また返ってくる

すごくイライラする

少し入れ方を変えてみようと考えた

指で弾くように自販機に高速で入れてみる

チャリン

やっぱり返ってくる

もう一度やってみたけど、それでも返ってきた

今度はゆっくりと入れてみる

チャリン

また虚しく返ってくる

ヌウ……

イライラしてるから駄目なのかと思い、深呼吸してみる

精神集中……………

はっ！！と掛け声を掛けながら再チャレンジ

チャリン

くっそおお！！！！

イライラが限界に達して、意地でも入れたくなる

チャリン、チャリン、チャリン、チャリン、チャリン、チャリン

……………

何回やっても入らない

横回転をかけてみたり

逆回転をかけてみたり

十円玉と一緒に連続で入れてみたり

それでも入らない

そこで初めて、百円を入れるのを諦めることにした

ものすごい敗北感を抱きながら、財布から千円札を取り出す……

くそう……と呟きながら千円札を自販機に入れようとする

ふと車が近くに止まり、誰かが降りてくる

僕の目の前まで来てこういった

「ごめんね、今からこの自販機は撤去してしまうんだ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0407s/>

自販機

2011年10月8日22時07分発行